

少子化により児童生徒数が減少し、小中学校の小規模化が進む中、全国各地で少子化に対応した活力ある学校づくりに向けての取り組みが進められています。

茂原市においても少子化に対応する教育の実現のために、審議会を設置し協議を積み重ねるとともに、小中学校の全保護者に対するアンケート、地域や学校での意見交換会、パブリックコメント等を実施してまいりました。そして、それらの結果をもとに平成29年3月に「茂原市学校再編基本計画」を策定しました。また、この基本計画に沿って具体的に学校再編を進めるために、平成30年3月には「茂原市学校再編第一次実施計画」を策定しました。

「第一次実施計画」の中には、平成29年度から平成32年度までの小中学校の統廃合計画が示されています。二宮小学校と緑ヶ丘小学校の統合も、その一つであり、平成29年5月現在で、この2つの学校とも全学年が単学級となっていることや、今後も児童数の減少が見込まれていることから、令和3年4月に両校を統合した新しい学校の開校を予定しています。

そこで、この2校の統合が円滑に進められるように、児童にとっては統合してよかったですと思えるような学校とするために、本年度、「二宮小学校・緑ヶ丘小学校統合準備委員会」を設置し、6月15日に1回目の統合準備委員会を開催しました。

この「統合準備委員会だより」は、統合後に開校される新しい学校に向けての統合準備委員会の協議の様子や両小学校の取り組み状況を保護者や地域の皆様にお知らせするために発行するものです。

## 1 二宮小学校・緑ヶ丘小学校の統合内容について（第一次実施計画より抜粋）

統合時期	令和3年（2021年）4月1日	使用校舎	緑ヶ丘小学校
通学区域	現行の両小学校区を合わせた区域		
検討事項	・スクールバス等の通学手段の検討 ・校名、校歌、校章の検討 ・統合に関する準備委員会の設置、協議 など		

## 2 統合準備委員会について

### (1) 統合準備委員会とは何か？

学校の統合にあたり、新校を円滑に開校するために設置される機関です。

統合に関し、「校名、校章などの決め方」や「通学手段」などについての意見を交わします。

委員は、二宮小学校と緑ヶ丘小学校の保護者・地域住民・教職員により構成されています。

### (2) 第1回統合準備委員会について

令和元年6月15日(土)午前10時30分から、緑ヶ丘小学校において、第1回統合準備委員会を開催しました。

委員の皆さんに委嘱状が交付され、委員長・副委員長の選出、今後の予定、統合校の名称の決定の仕方や遠距離者の通学対策等についての協議を行いました。

ア 統合準備委員会の構成員（◎は委員長、○は副委員長）

区 分	No.	二宮小学校区	緑ヶ丘小学校区
		氏 名	氏 名
保 護 者	1	加藤 洋平	片山 善征
	2	小俣 一茂	熊谷 貴美恵
地域住民	3	○ 矢部 彰久	◎ 伊東 良一
	4	大塚 悦子	神山 正弘
教 職 員	5	佐藤 功	岡澤 修
	6	矢部 孝之	佐藤 都史子

イ 協議事項に関する委員からの主な意見等

- (ア) 今後の予定について（■は協議期間、「・」は委員の意見もしくは教育委員会の回答）  
次の計画が承認されました。

年 度	令和元年度（2019年度）									令和2年度（2020年度）												
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
委員会 開 催	○	○			○		○		○		令和2年度は、令和元年度の様子及び進捗状況 をみて開催日を決定する。											
校名の 検 討							※1			決定	（※1）は、教育委員会議で採択											
校章の 検 討																						決定
校歌の 検 討																						決定
通学方法 の検討								決定														

- ・ 令和2年3月末までに校名を決定することになっているが、柔軟な対応をお願いしたい。

(イ) 統合校の名称の決定の仕方について

次回への継続審議となりました。

- ・ 近隣地域では、校名についてアンケート結果をもとに統合準備委員会で決めたり、公募により決めたりしている。
- ・ 統合準備委員会で校名の候補を5つくらいに絞り、公募をかけたらどうか。
- ・ 校名を決定するにあたっては、委員が学校や地域の歴史、伝統、特色を知っておくことが必要であるため、そのための勉強会を行ったらどうか。
- ・ 小学校では、地域住民も学校に協力的な面が多くみられる。地域住民の足が学校から遠ざからないように地域住民の意向を大切にしたい。

(ウ) 統合後に遠距離通学となる児童の通学方法について

次回への継続審議となりました。

- ・ 実際の通学路や通学方法について、学校で整理したものを委員に提示願いたい。
- ・ 二宮小学校の学区である黒戸・真名の両地区は、自宅から学校までの距離が比較的遠く、保護者等による車の送迎で対応している児童が多い。
- ・ 子どもたちの通学の環境を把握するためにも、黒戸、真名、緑園台から学校まで歩いてみることも必要ではないか。